

〔日本書紀十六〕十一年賢○仁八月、億計天皇崩仁賢、太子烈○武思欲聘物部麁鹿火大連女影媛、遣媒人向影媛宅期會影媛、會奸真鳥大臣男鮪並此云、恐違太子所期、報曰、妾望奉待海柘榴市巷、由是太子欲往期處、遣近侍舍人、就平群大臣宅奉太子命、求索官馬、大臣戲言陽進曰、官馬爲誰飼養、隨命而已、久之不進、

〔今昔物語二十八〕忠輔中納言付異名語第廿二

今昔中納言藤原ノ忠輔ト云フ人有ケリ、此ノ人常ニ仰テ空ヲ見ル様ニテノミ有ケレバ、世ノ人此レヲ仰ギ中納言トゾ付タリケル、而ニ其ノ人ノ右中辨ニテ、殿上人ニテ有ケル時ニ、小一條ノ左大將濟時ト云ケル人、内ニ參リ給ヘリケルニ、此ノ右中辨ニ會ヌ、大將右中辨ノ仰タルヲ見テ、戲レテ只今天ニハ何事カ侍ルト被云ケレバ、右中辨此ク被云テ、少攀縁發ケレバ、只今天ニハ大將ヲ犯ス星ナム現ジタルト答ヘケレバ、大將頗ル半无ク被思ケケレドモ、戲ナレバ否不腹立ズシテ、苦咲テ止ニケリ、其ノ後大將幾ク程ヲ不經ズシテ失給ヒケリ、然レバ此ノ戲言ノ爲ルニヤトゾ、右中辨思ヒ合セケル、人ノ命ヲ失フ事ハ、皆前世ノ報トハ云乍ラ、由无カラム戲言不可云ズ、此ク思ヒ合スル事モ有レバ也、

〔平家物語三〕頼豪事

江帥きやうばうの卿略○中いそぎ三井寺に行むかひ、らいがうあじやりが宿坊に行て、勅ちやうのおもむき、おほせふくめんとすれば、略○中おそろしげなるこゑして、天子にはたはぶれのことばなし、りんげんあせのごとしとこそ、うけたまはつて候へ、略○下

〔下學集下〕態下、妄語妄

〔書言字考節用集九〕言辭、妄語法界次第、以言語

〔倭訓栞前編〕十四、たはこと、妄語をいふ、淫言也、光仁紀、万葉集にもみえたり、略○中今うはこと、